

- 問1 日本の発電電力量の内訳において約6割を占め、現在の主力電源となっている火力発電について、その多くが沿岸部に位置している理由として最も適切な説明はどれですか。 (2022年 埼玉県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 発電時に発生する大量の熱を冷却するために、山間部の冷たい雪解け水よりも温度変化の少ない海水が必須であるため。 | 2. 発電所の建設に必要な広大な平地が山間部には存在せず、大規模な埋め立てが可能な沿岸部しか選択肢がないため。 | 3. 大規模な電力消費地である都市部から遠ざけることで、送電中に発生する火災などの事故リスクを最小限に抑えるため。 | 4. 原料となる石油や石炭などのエネルギー資源の多くを海外から輸入しており、大型船舶からの荷揚げに便利であるため。 |
|---|---|---|---|
- 問2 福井県や石川県といった北陸地方において、伝統的に産地が形成され、現代においても全国的な製造品出荷額の割合が高い産業として適切なものはどれですか。 (2024年 大分県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|---------|---------|---------|
| 1. 自動車工業 | 2. 繊維工業 | 3. 化学工業 | 4. 石油製品 |
|----------|---------|---------|---------|
- 問3 愛知県の自動車産業において、組み立て工場や部品工場の多くが高速道路の沿線に立地している理由として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 埼玉県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------------------|--|----------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 鉄鋼などの重い原材料を、一度に大量かつ安価に長距離輸送するため | 2. 工場の従業員が、新幹線や鉄道を利用して効率よく通勤できるようにするため | 3. 多種多様な部品を必要な時に必要な量だけ、迅速に輸送するため | 4. 一般道路の渋滞を避けるため、すべての製品を空路で運ぶ拠点とするため |
|------------------------------------|--|----------------------------------|--------------------------------------|
- 問4 宮崎県や高知県などの温暖な地域において、ビニールハウスなどの施設を利用してピーマンやナスなどの収穫時期を通常よりも早めて出荷する「促成栽培」が行われています。このような工夫が行われる背景にある、農家の経済的なねらいとして最も適切なものはどれですか。 (2021年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 他の産地の出荷が少ない時期に市場へ出すことで、より高い価格での販売を目指すため | 2. 同じ土地で1年に2回異なる種類の作物を栽培することで、土地の利用効率を高めるため | 3. 大都市の近くで栽培を行うことで、輸送にかかる時間やコストを最小限に抑えるため | 4. 夏の強い日差しや台風による被害を避けるために、収穫を春までにすべて終わらせるため |
|--|---|---|---|
- 問5 日本の三大工業地帯の一つで、東京都から神奈川県の大東京湾に面した臨海部を中心に広がる工業地帯を何と呼びますか。最も適切なものを次の中から選びなさい。 (2020年 岐阜県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|-----------|------------|-----------|
| 1. 中京工業地帯 | 2. 京浜工業地帯 | 3. 北関東工業地域 | 4. 京葉工業地域 |
|-----------|-----------|------------|-----------|
- 問6 日本が海外から輸入しているエネルギー資源のうち、2016年の統計において、輸入相手国の1位がオーストラリア（26.9%）、2位がマレーシア（18.6%）となっている資源の名称を答えなさい。 (2019年 鳥取県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------------|--------|-------|-----------|
| 1. 液化天然ガス（LNG） | 2. 鉄鉱石 | 3. 石炭 | 4. 原油（石油） |
|----------------|--------|-------|-----------|
- 問7 1979年の約2140万台から2009年の約5768万台へと、約30年間で日本の乗用車保有台数が2.7倍近くにまで増加した統計が見られます。このように、自動車が一般家庭に普及し、生活や社会の仕組みが自動車中心へと変化した現象を何といいますか。 (2017年 長崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------|--------------------|--------------|---------------|
| 1. アーバンイゼーション | 2. インフォメーションテクノロジー | 3. モータリゼーション | 4. グローバリゼーション |
|---------------|--------------------|--------------|---------------|
- 問8 瀬戸内工業地域の製造品出荷額の内訳を見ると、機械工業が約35%、金属工業が約19%となっています。特に、全国平均の割合が約13%であるのに対し、この地域では約22%と高い割合を占めている、重化学工業を支える中心的な部門は何ですか。 (2022年 三重県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|---------|--------------|---------|
| 1. 食料品工業 | 2. 化学工業 | 3. 窯業・土石製品工業 | 4. 繊維工業 |
|----------|---------|--------------|---------|
- 問9 1960年代以降に建設された千里ニュータウンなどの大規模住宅地では、開発当初と比較して住民の構成が大きく変化しています。1980年頃には年少人口が多かったのに対し、2020年には高齢者率が30%を超え、年少人口が大幅に減少している状況において、コミュニティを維持するために求められている取り組みとして最も適切なものはどれですか。 (2024年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 高齢者の増加を抑えるため、入居できる年齢に上限を設け、単身の若年層のみを対象とした高層マンションを建設する | 2. 産業の空洞化が課題となっているため、住宅地をすべて取り壊して最新の工業団地へと再開発を行う | 3. 若年層の人口が急増しているため、小学校や中学校の新設を最優先で行い、大規模な工場誘致を進める | 4. 高齢者が安心して暮らせるよう住宅のバリアフリー化を進めるとともに、多世代交流を促すイベントを開催する |
|--|--|---|---|
- 問10 日本の都道府県別の畜産物産出額の内訳において、肉用牛が約35%、鶏が約33%、豚が約28%と、肉用家畜の生産が非常に高い割合でバランスよく行われている鹿児島県について、このような産業が発達した背景として最も適切な説明はどれですか。 (2016年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 広大な十勝平野や根釧台地において、寒冷な気候を活かした大規模な酪農が展開されたため。 | 2. 中央高地の険しい地形を利用し、夏でも涼しい気候を求めて牛や羊の移動放牧が行われてきたため。 | 3. 大消費地である東京に隣接しているため、生乳の鮮度を保ったまま出荷できる近郊農業として乳用牛の飼育が発展したため。 | 4. 火山灰が堆積したシラス台地が広がり、水持ちが悪く稲作に適さなかった土地を活かして畜産業が発展したため。 |
|---|--|---|--|
- 問11 宮城県や福岡県のように、その地方の中で最も人口が多く、高速道路や新幹線などの交通網が結節する地点に位置する都市が果たす役割について述べたものです。こうした、地方全体の経済や行政の拠点となっている都市を何と呼びますか。 (2017年 福岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|-----------|---------|----------|
| 1. 地方中枢都市 | 2. 政令指定都市 | 3. 過疎地域 | 4. 三大都市圏 |
|-----------|-----------|---------|----------|
- 問12 近年、日本の物流において、効率的な貨物輸送を行うために輸送手段の組み合わせを見直し、鉄道や船の利用を増やす動きが進んでいます。このようにモーダルシフトが進められている背景の説明として、最も適切なものはどれですか。 (2025年 徳島県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. すべての貨物輸送を長距離フェリーに置き換えることで、輸送にかかる燃料費を完全にゼロにするため。 | 2. 鉄道や船による輸送は、自動車による輸送に比べて戸口から戸口へのきめ細かな配送が容易になるため。 | 3. トラックドライバーの不足に対応するとともに、自動車から排出される二酸化炭素を削減して環境負荷を軽減するため。 | 4. トラックの排気ガス規制が強まり、自動車による貨物輸送が法律で全面的に禁止されることになったため。 |
|--|--|---|---|